

『ひろしまレポート』ウェビナー:

核軍縮・不拡散・核セキュリティをめぐる2022年の動向と2023年の課題・提言

# 核をめぐる広島市民の声と岸田政権 —G7サミットを前に

2023年3月28日

広島市立大学

水本 和実



# はじめにー「広島市民の声」とは

平和に反する動きを「批判」とのイメージ

最近の**主な批判**例

広島市教委平和教材「ひろしま平和ノート」改訂

「**はだしのゲン**」削除問題にみる問題点

## ・ <経過>

- ・ 2013年から市立小中高で独自教材使用
  - ・ 年3コマで平和を教える
  - ・ 小学3年で「戦争当時の生活」や被爆体験教える教材に「はだしのゲン」採用
    - ・ 作成時、作者中沢啓治氏が漫画家引退を表明。原画を市に寄贈し、ドキュメンタリー映画が作られるなど、話題に(中沢氏2012年12月没)
    - ・ 話題のコミックのシーン、分かりやすさに注目

# はじめにー「広島市民の声」とは

## 「はだしのゲン」削除問題にみる問題点

### <経過>

- ・ 10年後の見直し作業、小中高の全てで課題を列挙
- ・ 小3では「はだしのゲン」の場面が**教えにくい**との現場の声
  - ・ 病弱な母親に栄養をつけようと、隣家の池に忍び込んでコイを釣る。コイを盗んだ行為を父親も許してくれ、その喜びを浪曲で歌うというシーン
  - ・ 平和学習で盗みを肯定してよいのか危惧
- ・ 限られた時間で、特殊な時代背景も含めて教えること困難
- ・ 代替案
  - ⇒被爆体験証言者・伝承者を務める**母娘の体験**を教材化
- ・ 「はだしのゲン」の作品そのものを否定する意図は全くなし



# はじめにー「広島市民の声」とは

## 「はだしのゲン」削除問題にみる問題点

### <経過>

- ・ 地元紙、市教委が「教材から『はだしのゲン』を削除」と報道
- ・ テレビ各局も全国ニュースで「はだしのゲン」削除問題として伝える
- ・ 各地の市民から怒りの声が市教委に寄せられる
- ・ 市教委「改定は教育実務上の理由」
  - ・ 戦時下の暮らしや被爆の実相を教えやすい教材に取り換え
    - ・ 代替教材は市民の被爆体験が題材に
    - ・ 被爆の名作の解説が教材の目的ではない

# はじめにー「広島市民の声」とは

## 「はだしのゲン」削除問題にみる問題点

- ・ 問われるべきは「より良い教材は何か」なのに
- ・ 『はだしのゲン』削除、是か非かが問われる形
  - ・ 「存続」以外のあらゆる選択肢は批判される
  - ・ 予期せぬ政治問題化
    - ・ 「はだしのゲン」に批判的な保守系教育団体が市教委に「支持」表明
- ・ 教材に掲載されていない作品は多いが、問題にされず
  - ・ 「ちちをかえせ」(峠三吉)
  - ・ 「うましめんかな」(栗原貞子)などの原爆詩
  - ・ 子どもの体験記を集めた『原爆の子』
- ・ こうした批判の在り方に問題はないのか・・・今日の出発点




# はじめにー「広島市民の声」とは

- ・ 市民の「素朴」な平和意識
  - ・ 「戦争体験」に基づく「戦後平和主義」
  - ・ 「被爆体験」に基づく「反核意識」
- ・ 批判が時に「誤解」に基づくことはないのか
- ・ 厳しい批判は容易に**断罪型**となりうる
- ・ 最近の新しい動き、**包括受入型**の運動
  - ・ 多数派形成するには考え方の異なる人を取り込む必要
  - ・ **断罪型**から**包括受入型**への課題を考えてみたい



# 本日の報告の構成

- ・「広島市民の声」と岸田政権批判
- ・ ①核をめぐる主要な「論点」
  - ・ 「安保3文書」改定をどう見るか
  - ・ ウクライナ情勢
  - ・ 核兵器禁止条約
  - ・ 広島サミットのあり方
- ・ ②「市民の声」を代弁する「論者」
  - ・ 主要な組織・リーダー・識者
    - 反核団体
    - NPO代表者
    - メディア
- ・ ③「広島市民の声」の特徴
  - ・ 断罪型から包括受入型へ



# ①核をめぐる主要な論点

1)「安保3文書」改定をどう見るか

<経緯>

2022年12月16日、国家安全保障会議と閣議により以下の3文書が決定

「国家安全保障戦略」

「国家防衛戦略」(従来の「防衛計画の大綱」に代わる)

「防衛力整備計画」(従来の「中期防衛力整備計画」に代わる)



# ①核をめぐる主要な論点

## (1)「安保3文書」改定をどう見るか

< 専門家＝有識者会議メンバー＝の論点 >

- ・ 防衛費43兆円への増額は「重い政治的決断」だと評価
- ・ 背景にウクライナ戦争の影響
  - ・ 「抑止力破綻」が戦争の原因だと分析
  - ・ 対中国「抑止力の破綻」を防ぐ必要
- ・ 防衛力と抑止力高めるため「敵基地打撃能力」の強化必要

(舟橋洋一「東アジアの平和を保つ『抑止力』を構築せよ。」「潮』2023年2月号)

# ①核をめぐる主要な論点

## <「市民」の声>

(1)「安保3文書」改定をどう見るか

⇒以下の点を強く批判、白紙撤回を求める

①「敵基地攻撃能力の保有」

- ・ 憲法違反
- ・ 従来の「専守防衛」理念を覆すもの
- ・ 国際法に反する先制攻撃を可能にし、軍拡を招く

②防衛費の大幅増

- ・ 2027年度防衛費の対GDP比2%に増額
- ・ 5年間の防衛費43兆円に増額(口

③ミサイル防衛強化(「スタンドオフ防衛能力」整備)

# ①核をめぐる主要な論点

## <「市民」の声>

### (2)ウクライナ情勢

- ウクライナ戦争は世界に核戦争の危機をもたらした
- 被爆国政府の役割は核戦争を回避させること
- ⇒岸田政権は「抑止論」の拡大で軍事的緊張を高めている
  - 「安保3文書」
  - 防衛費増額
  - 「敵基地攻撃能力」による日米軍事同盟強化は戦争の準備
- 今こそ必要な「平和の準備」

# ①核をめぐる主要な論点

## <「市民」の声>

### (3)核兵器禁止条約

- 日本政府は直ちに署名、批准せよ
  - 2023年11月の第2回締約国会議にオブザーバー参加すべき
  - 核保有国と非核保有国間の「橋渡し」に矛盾する姿勢
    - 米国に核の先制不使用宣言しないよう求めている
    - 防衛に必要な「あらゆる選択肢」検討の決意表明(日米共同宣言)  
⇒核の使用を除外せず
- 締約国会議で条約の普遍化、核被害者への救援など議論必要

# ①核をめぐる主要な論点

## <「市民」の声>

### (4) 広島サミットのあり方

- G7の全ての国が安全保障を「核」に依存
  - 核保有国3カ国(米・英・仏)
  - NATO加盟国6カ国(日本以外)

⇒核兵器禁止条約を主題に議論すべき

⇒核保有国ロシアも中国も招待すべき
- 被爆地広島を「貸し舞台」にするな
  - ロシアの軍事侵攻を批判し、核保有国と同盟国が結束をアピールするだけでは無意味

## ②「市民の声」を代弁する論者＝主要な組織・リーダー・識者など

- ・反核団体

核兵器廃絶をめざすヒロシマの会  
広島マスコミ九条の会 など

- ・NPO代表、識者

元広島市長、平岡敬氏  
ANT-Hiroshima 理事長 渡部朋子氏ほか

- ・メディア

中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター  
主要全国紙の総局・支局  
テレビ各局(NHK、民放4社)

＜市民の声にも多様な意見があるが、本報告では、議論を単純化するため、**広島**の「**論者**」に**共通する代表的な見方**を**報告者の独断**で「**市民の声**」として紹介する＞



# ③「広島市民の声」の特徴

## (1) 各主要論点で日本政府を批判

- ・ 「安保3文書」改定をどう見るか
  - ・ 「敵基地攻撃の保有」と「防衛費増額」に反対
- ・ ウクライナ情勢
  - ・ 日本政府は核戦争回避すべきなのに、「抑止論」掲げ戦争の緊張を高めている
- ・ 核兵器禁止条約
  - ・ 日本政府は被爆国として署名批准すべきなのに、核への依存高めている。
- ・ 広島サミットのあり方
  - ・ 被爆地を「貸し舞台」にするな、核禁条約について話し合うべき

# ③「広島市民の声」の特徴

## (2) 最近の主な批判例

### ① オバマ米大統領の広島訪問

- ・ 世論調査では国民の9割以上が訪問を歓迎
- ・ 被爆地の識者の意見は大半が批判論
  - ・ 「謝罪なし」「核軍縮の提言なし」「短すぎる視察」
- ・ 日本被団協も反対決議
  - ・ 歓迎式典に参加した坪井直氏も自ら批判されることを危惧
- ・ オバマ氏広島訪問後、海外からの訪問者急増
  - ・ 米国内世論も被爆地訪問を好意的に受け止め
  - ・ 最終的にオバマ訪問を被爆地も受け入れたのか？



# ③「広島市民の声」の特徴

## (2) 最近の主な批判例

### 平和記念資料館展示リニューアル

#### ②本館展示からのジオラマ(被爆者人形)撤去批判

- ・ 展示更新委員会で早くから「撤去方針」をメディアにも公表
  - ・ 資料館は展示の「実証性」を重視すべき
  - ・ 被爆者人形は、資料としての実証性に欠ける
    - ・ 爆心から何キロの場所で、誰の被爆体験を示しているのか
  - ・ 被爆者の中にも「(悲惨さは)あんなもんじゃなかった」とする声も
- ・ リニューアル直前になりメディアで「被爆人形撤去批判の声」紹介
  - ・ 全国で「おかしい」との声広がる

# ③「広島市民の声」の特徴

## (2) 最近の主な批判例

### ② 本館展示からのジオラマ(被爆者人形)撤去批判

- ・ 最終的に展示更新委員会でジオラマの撤去と、今後の特別展示等で活用のため保存することを確認
- ・ リニューアル後の新展示、改めて胸打つ悲惨な内容
  - ・ 遺品など資料中心
    - ・ 被爆者の個別のストーリーを実証的に展示
- ・ ジオラマ撤去への批判論、事実上立ち消えに
  - ・ 「悲惨さを薄めるため」との誤解解消

# ③「広島市民の声」の特徴

## (3) 新しい市民運動＝包括受入型

### ＜主要論点に見る主張＞

- ・ ウクライナ戦争⇒世界の市民に「反核の規範」が共有されていること強調
- ・ 国内の平和運動⇒
  - ・ 核廃絶へ党派や宗教を超え、世代、ジェンダーに配慮した協働が広がっている
- ・ 核兵器禁止条約⇒日本政府に批准求める新たな運動紹介
  - ・ 広島で各政党代表招いて討論実施
  - ・ 国会議員への働きかけ、外務省との定期的意見交換実施
  - ・ 都道府県知事、市区町村議員との面会を通して、核兵器禁止条約が選挙の争点となる「議員ウオッチ」を実施
- ・ ICANと連携したキャンペーン
  - ・ SNS用いた情報発信力や、核兵器禁止条約を実現させたロビー活動、社会正義を軸に他の社会課題とつながった運動の展開から学ぶ

＜UNITAR主催の公開セミナー「核軍縮・不拡散の今：2023年の予想図」(2023年2月18日)でのNPO法人ANT-Hiroshima理事長 渡部朋子氏の報告から＞

# ③「広島市民の声」の特徴

## (3) 新しい市民運動＝包括受入型

＜特徴＞主要論点に見る断罪型との違い

- ・ 批判よりも成果をアピール
- ・ 要求を突き付けることより、対話のチャンネルをどう維持するかに主眼
- ・ 厳しい現実を告発するより、市民に広がる前向きな価値観をアピール
- ・ 被爆体験継承の危機に警鐘を鳴らすのではなく、すでに実施している多様な取り組みを紹介
- ・ 核兵器の被害の実態の告発より、世界各地の核被害者（グローバルヒバクシャ）同士の交流をアピール
- ・ 「希望のメッセージ」を重視、運動参加者にも希望をもたらす

# ③「広島市民の声」の特徴

## (3) 新しい市民運動＝包括受入型

### ・今後の課題

- ・ 安全保障上の脅威(中国の軍事力、北朝鮮の核ミサイル開発)にどう向き合うのか

- ・ 「抑止力」肯定の保守派

- ・ 「抑止力」批判の断罪型

と異なるアプローチはありうるのか

- ・ 多数派形成を目指すのなら、両方のアプローチともに限界
- ・ 具体的政策提言能力も含め、今後の展開の在り方が問われている

ご清聴ありがとうございました